

前書き

日本の春、多くの人々は花の開花を待ち、その美しさを愛でます。特に、桜、中でもソメイヨシノについては、「開花予想」から「蕾ふくらむ」「開花宣言」「三分咲き」……「満開」と実況中継しながらに報道され、「お花見に行きたい！」気分になります。そして「散り初め」「散りはて」……と書いてあると、なんとなく「もう行ってもダメかなあ」という気分になります。桜の木は長い期間ずっとそこに生えているのですが、多くの人々が関心を持つのは花を咲かせている10日間か、せいぜい2週間。しかも、お花見に来た人々の大多数は、「咲いている花」に目を向けます。きわめて一般的な反応と言えます。

しかし、木が美しい花を咲かすためには、木そのもの、例えば幹や根の状態が良くないといけません。さらに、その木が生えている土壌、土の状態も重要です。それらのことに目を向け、年間を通じてお世話する方々がおられればこそ、今日、この花が美しいのだ、と思いつながら、花を愛でたいと思います。最初にお花見を例に出しましたが、目立つものに注目が集まる他の例として、スポーツ選手が挙げられます。見事な身体能力や永年の経験から生まれる、素晴らしい、時には人間技とは思えないプレイを見ると、本当に感動させられます。多くの少年少女がそういう姿に憧れ、「カッコイイ！」とプロ選手を目指して練習に励んでいます。ほとんどの子どもたちやその親御さんたちは、そのスポーツそのものや

そこから得られる感動が大好きなのだと思いますが、中にはサラリーマンが一生かかっても得られない収入が目当ての人たちがおられることは否めません。

純クラシックの音楽家である私は、スポーツ選手の素晴らしい活躍場面を見ると、「どれだけ努力をされたのか……」と想像して頭が下がります。また、ケガや故障で良い成績が出せない選手が、時に厳しい言葉を投げかけられていると、「どれだけつらいだろうか……」とリアルに考えてしまいます。私自身
が幼い頃から、練習、練習、練習の日々を重ねてステージに立ち、その努力に見合った成果を得られるとは限らない生演奏の世界で（少なくともプロとして40年以上）生きてきたので、とても他人事とは思えないのです。

『音で表現する』音楽家が、どれだけ文章で表現できるのか、と思いますが、「私が音を出すまでに行っていること」をお伝えすることで、見た目の華やかさやかっこよさだけに耳目を奪われるのではなく、それを支えるもの、その人を形成する中身やバックグラウンドに思いを巡らせる想像力を養い、それぞれ
の『自然な自己表現』を身につけ、さらに他者の自己表現に対して感度を上げるきっかけとしていただければ幸いです。